

# 横山忠始市長就任インタビュー

## 市長に聞く！

初代三豊市長に就任された横山忠始市長に、就任の感想、抱負、三豊市のこれからのまちづくりなどについて語っていただきました。

就任おめでとうございます。三豊市長になられた今のお気持ちをお聞かせください。

気力充実、やる気まんまんです。立候補する前は、三豊市の市長という厳しい仕事に正直不安もありました。しかし、選挙期間中、たくさんの方の皆さんに直接お会いし、生の声を聞き、多くのご支持をいただいたことが、今の私の原動力になっています。就任して少し日がたち、目の前に問題は山積していますが、気力とやる気はますます、充実しています。

それでは、市長としてまず何かからとりかかると、お聞かせください。

まず一番に、徹底した「行財政改革」。そのためには、職員の意識改革をはか

ります。これは初登庁後の職員訓示でも述べましたが、三豊市の職員として三豊市全体を常にイメージして仕事をする、「市民が市のオーナーであり、市長も職員も市民に雇用されている。敬意と感謝の念をもって市民と接すること」、「ムダを省き、温かく、かつ効率的な仕事をする」と、この3つの意識改革を職員に徹底します。具体的には、4月から1年間かけて中期財政計画と行財政改革案を作って、行財政改革を実行します。

市長は選挙の公約に具体的な政策をあげていました。なかでも毎月1回各支所で仕事をするということに驚いた人も多いと思いますが、

移動型市政は全国でもあまり例がないと思いますが、4月から月に1日、



各支所で仕事をします。三豊市は面積222平方km、7万1千人が暮らす広大なまちです。いつも市役所から三豊市を見るのではなく、各支所に行くと、その場所から、その地域の市民の視点で三豊市を見てみたいのです。また、支所で市の会議なども行います。そのことで私も職員も三豊市全体を理解することにつながり、支所の活性化も図ることができそうです。

三豊市の新しいまちづくりについてお聞かせください。

『躍動するまち』をつくりたいですね。元気なまちづくりとか元気な産業とか「元気」という言葉はよく使われていますが、元気よりもっといきいきと、みんなで挑戦できるような躍動感のあるまちづくりです。

具体案はすでに持っていますので、3月議会で発表します。

それではまず、福祉についてのお考えをお聞かせください。

三豊市は少子高齢化が顕著なまちです。少子化対策のひとつとして4月から毎月1カ所、市内の保育所・幼稚園で保護者との対話集会を行います。子育ての現状や意見をお聞きし、保護者ニーズと行政サービスのズレがないかを確認します。

高齢者福祉については、「先手の福祉」に重点を置きます。高齢者が病気や寝たきりになってしまってからケアする「後手の福祉」ではなく、そうならなために高齢者が生きがいを持って、積極的に社会に参加し、いきいきと元気に長生きできるような環境づくり、つまり、「先手の福祉」に力を注ぎたいと思います。高齢者がいきいきとしていけば、まちもいきいきしてきます。

教育についてはいかがですか？

先ほどの先手の福祉にも関連しますが「生涯現役」であるための「生涯学習」の充実をはかります。

子どもたちへの教育については、「三豊市への誇り」と「生きる力」を身につける教育をしたいと思っています。

教育委員会との協議が必要ですが、地域ボランティア教師の採用は考えら



れないのでしょうか。例えば地元のお年寄りから三豊の歴史や文化を学んだり、銀行員から金融の仕組みを学んだり、商店で商品の販売や利益を生み出す方法を学んだり、さまざまな職業の人から学ぶことで、子どもたちがふるさとを誇りに思い、実社会の中でたくましく生きる力を身につけることができると思います。

産業については?

中国の進出などで、日本の産業は構造改革を迫られています。これからの日本の未来産業のキーワードは「森」と「農業」と「海」と言われていますが、三豊市にはこの全部がそろっています。

つまり、この豊富な資源を活用すれば、三豊市には無限の可能性があるということです。

まず、農業・漁業などをはじめとする地場産業の振興をはかります。また、各地の工業団地をはじめ、市内にたくさんある遊休地を有効活用します。雇用の拡大にもつながり、まちに活気があふれてきます。

観光については?

三豊市は観光資源の宝庫です。海、山文化、歴史、素晴らしい素材はたくさんあるのですから見せ方次第で、人と呼ぶことができると思います。今ある資源をいかに表現できるかが観光の鍵です。

また、民間主導の新しいイベントを行うなど、民間のアイデアと力を活用すれば、観光にはどんどん夢が広がっていきます。

最後に市民の皆さんへのメッセージと、決意を述べてください。

これは、市民の皆さんに対する期待ですが、私はこれから「地域内分権」の時代が始まると思っています。

地方分権で国の仕事はどんどん地方へと移されてきています。一方で今後市の職員は減少していきます。今、始まっている地方分権は、地域内分権で完結します。民間企業ができることは

民間企業に、市民団体のできることは市民団体に、市民にできることは市民の皆さんにやっていただきます。これが「地域内分権」です。

そのために、必要な情報は広報紙やホームページなどで積極的に公開し、協力を呼びかけたいと思います。

厳しい時代ではありますが、新しく選ばれた議会の皆さん、そして市民の皆さんと力を合わせて行財政改革につとめ、自分たちだけでなく子や孫の世代までも見据えたまちづくりをしたいと思えます。

そして、7つの個性ある町が一緒になつたわけですから、互いを尊重し、認め合い、融和し、香川県でも特筆される躍動感と個性のあるまちにしたいと思えます。

みんなで力を合わせて、新しい三豊市をつくっていきましょう!!  
どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

## 躍動するまちへ

